

## **姫路の君主：榊原家(1649-1667 & 1704-1741)**

### **榊原忠次：賢明な政治と経済発展**

姫路を支配した人物のうち、榊原忠次(1605-1665)は最も慈悲深い人として記憶に残っている。有能な管理者として彼は 1649 年にその職に就き、姫路の周りの川を改善し、時折発生する洪水を防ぐための堤防を築き、現在は守られている内陸部に新田と塩田を開発し始めた。彼の新規計画は一般の人々の生活をよりよいものにし、領地を経済的に堅固な土台に据えた。

彼の後継者がすべて彼ほど慎重であるわけではなかった。一家が姫路の君主であるということは榊原政岑(1713-1743)で終わった。彼の浪費癖が将軍を怒らせたのだった。政岑は約 40 万 US ドルにも値する金 3 千両という大金を江戸(現在の東京)の有名な芸者に支払うことで倭約令を無視したのだった。将軍徳川吉宗(1684-1751)は激怒し政岑から君主職を剥奪し一家を新潟に移した。

### **榊原忠次：武士の名誉**

本多家同様、榊原一族は徳川四天王、すなわち重要な 4 つの方角を守る仏教の 4 人の神々に由来して名付けられた 4 人の有名な指揮官の一人を輩出した。将軍徳川家光(1604-1651)が榊原忠次(1605-1665)に姫路の君主職を提供したとき、忠次は最初断った。その職がもたらすであろう富にもかかわらず、である。「私たち一家は徳川一族の急先鋒です」と忠次は将軍に言った。彼はまた、姫路は一大事の時に幕府に駆けつけるには首都から遠すぎるとも言った。しかし家光が西日本における軍事要塞として姫路の重要性を思い出させると、誇り高き戦士は態度を和らげその職を受け入れた。

### **天守閣の補強**

姫路藩主の座を受け入れたあと、忠次は城の大改修を行った。彼は主要柱の腐った土台を取り替え一つの巨大な柱を帯状にした鉄で包み込んで天守閣を強化した。天守閣のもう一方の主要柱は一本の木の幹でできている。

榊原忠次